

新型コロナウイルス感染症に対応するための 個別試験におけるオンラインの活用

1 目的

各大学が実施する令和3年度大学入学者選抜について、学部ごとに個別試験におけるオンラインの活用状況を把握する。

2 実施時期および方法

令和3年4月6日～令和3年4月16日 eメールによる調査票の発送及び回答票回収

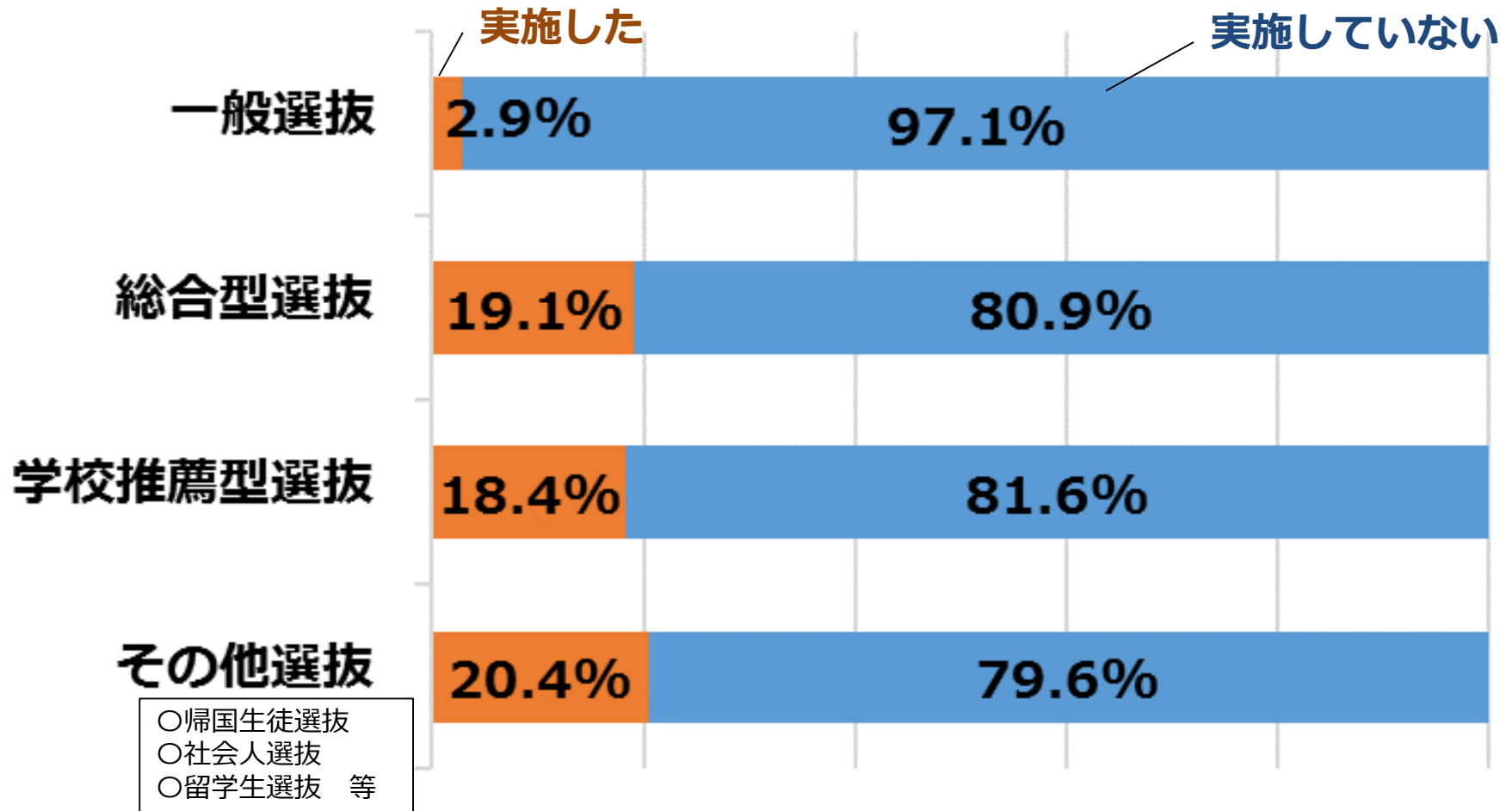
3 対象

本調査は、全ての大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学の計775大学）を対象としている。
回収数は775大学（回収率：100.0%）。

個別選抜においてオンラインを活用した入試の実施状況

- 個別選抜においてオンラインを活用した入試（※）を実施した学部は、一般選抜で2.9%、総合型選抜で19.1%、学校推薦型選抜で18.4%、その他選抜で20.4%である。

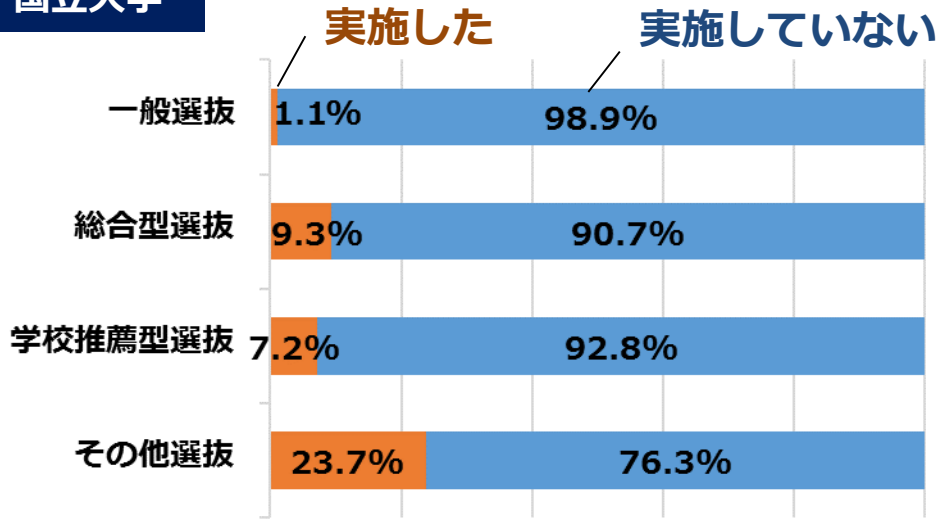
※「オンラインを活用した入試」とは、直接試験実施者と受験者が対面せず、インターネットを活用して実施される試験形態をいう。



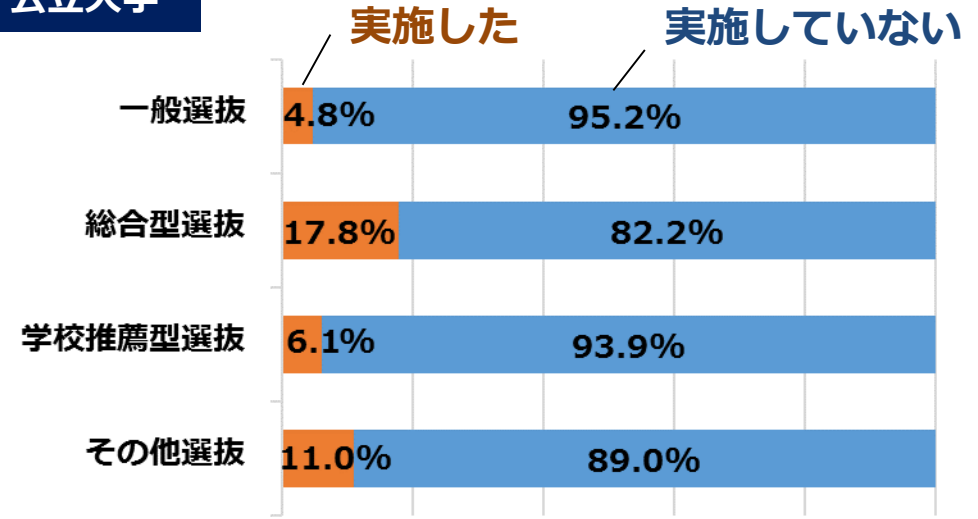
個別選抜においてオンラインを活用した入試の実施状況（国公私別）

- 個別選抜においてオンラインを活用した入試を実施した学部は、総合型選抜について、国立大学で9.3%、公立大学で17.8%、私立大学で20.5%である。
- 同様に、学校推薦型選抜について、国立大学で7.2%、公立大学で6.1%、私立大学で21.4%である。

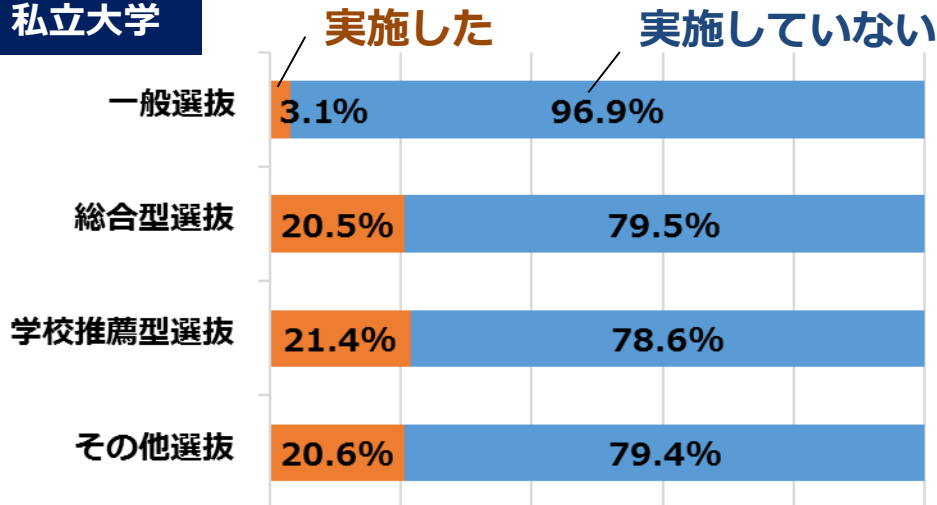
国立大学



公立大学



私立大学



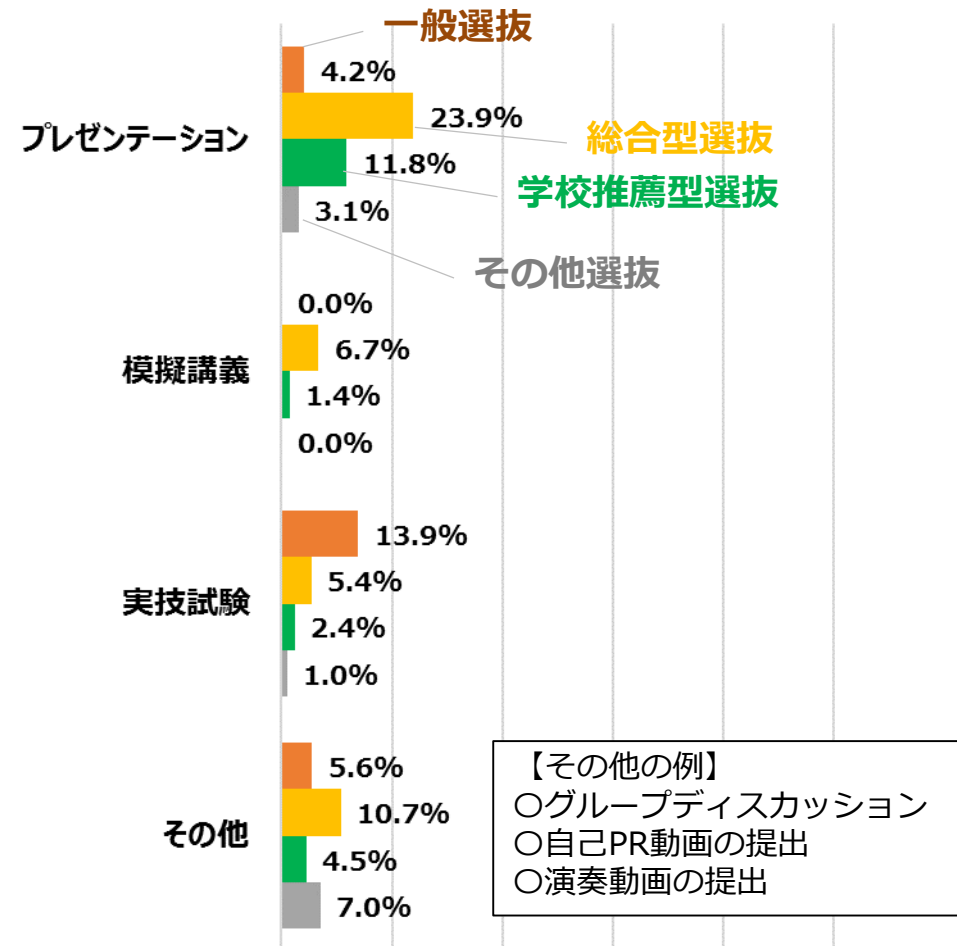
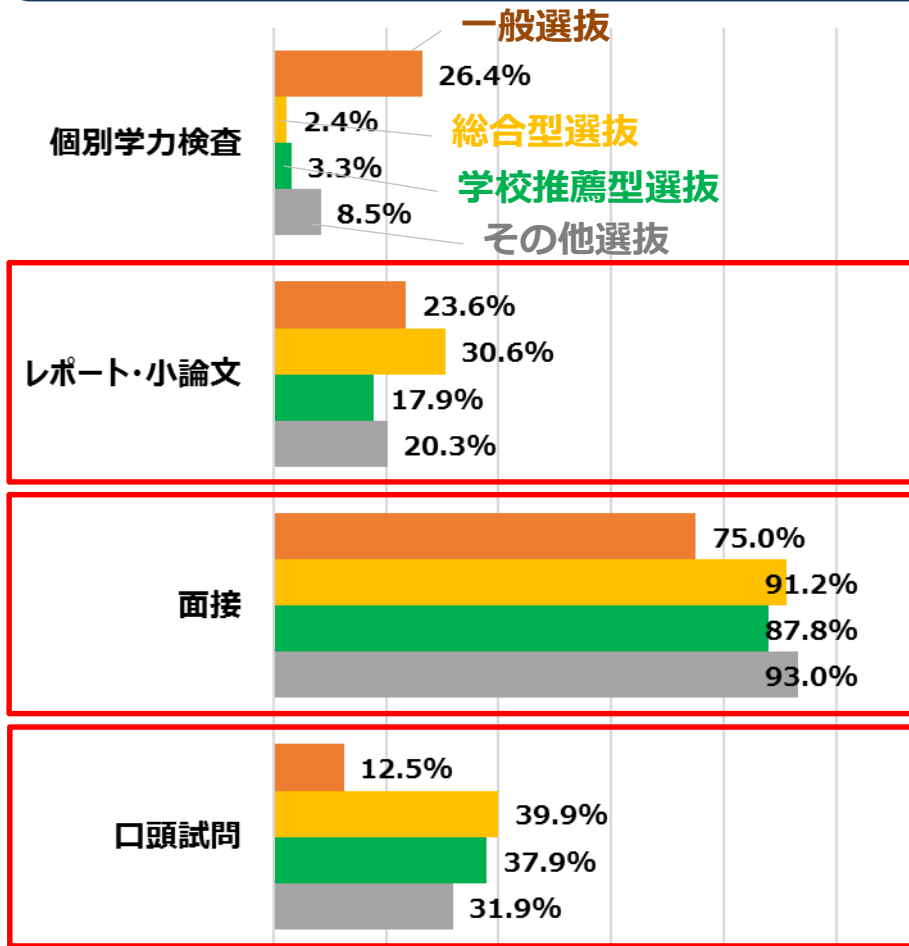
○国立大学
 一般選抜 n=379学部
 総合型選抜 n=227学部
 学校推薦型選抜 n=278学部
 その他選抜 n=350学部

○公立大学
 一般選抜 n=209学部
 総合型選抜 n= 73学部
 学校推薦型選抜 n=197学部
 その他選抜 n=155学部

○私立大学
 一般選抜 n=1,877学部
 総合型選抜 n=1,650学部
 学校推薦型選抜 n=1,835学部
 その他選抜 n=1,523学部

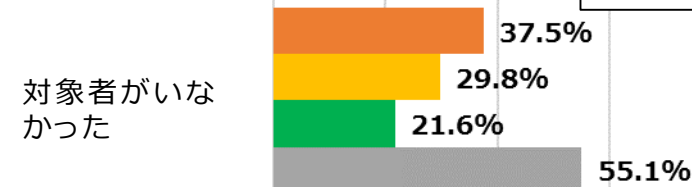
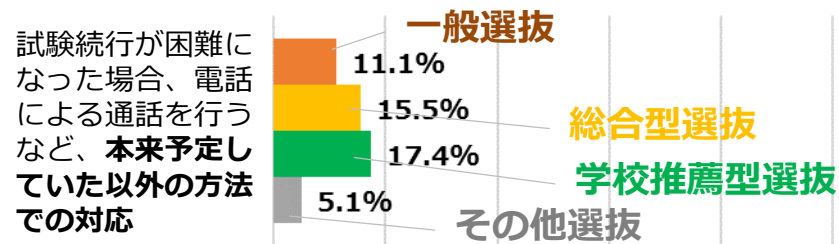
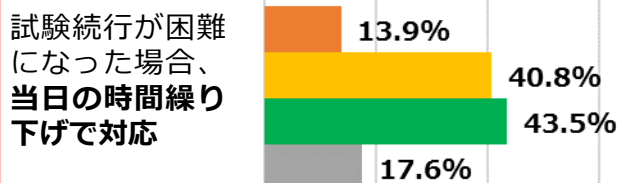
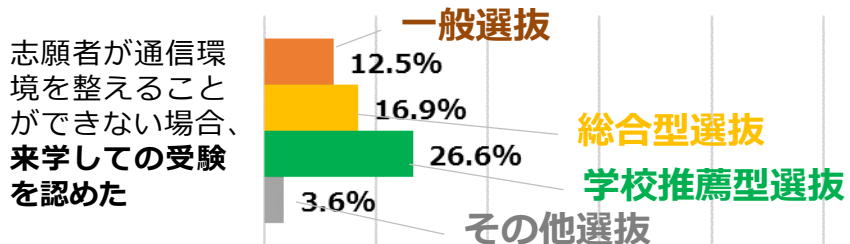
オンラインを活用した入試の実施内容

- オンラインを活用した入試の実施内容のうち、オンライン面接を実施した学部は、一般選抜で75.0%、総合型選抜で91.2%、学校推薦型選抜で87.8%、その他選抜で93.0%である。
- 同様に、オンラインで口頭試問を実施した学部は、一般選抜で12.5%、総合型選抜で39.9%、学校推薦型選抜で37.9%、その他選抜で31.9%である。
- また、オンラインでレポート・小論文を実施した学部は、一般選抜で23.6%、総合型選抜で30.6%、学校推薦型選抜で17.9%、その他選抜で20.3%である。



特定の志願者が不利益を被ることが無いようにするための対応

- 入学志願者が通信環境を整えることができない場合や、試験実施中に通信環境の不具合が生じた場合等に備えた措置として、サポートデスクなどの連絡窓口を設置した学部は、一般選抜で34.7%、総合型選抜で39.7%、学校推薦型選抜で44.2%、その他選抜で31.4%である。
- 同様に、当日の時間繰り下げで対応した学部は、一般選抜で13.9%、総合型選抜で40.8%、学校推薦型選抜で43.5%、その他選抜で17.6%である。
- また、高等学校の端末を活用した受験を勧めた学部は、一般選抜で16.7%、総合型選抜で29.8%、学校推薦型選抜で36.2%、その他選抜で14.3%である。

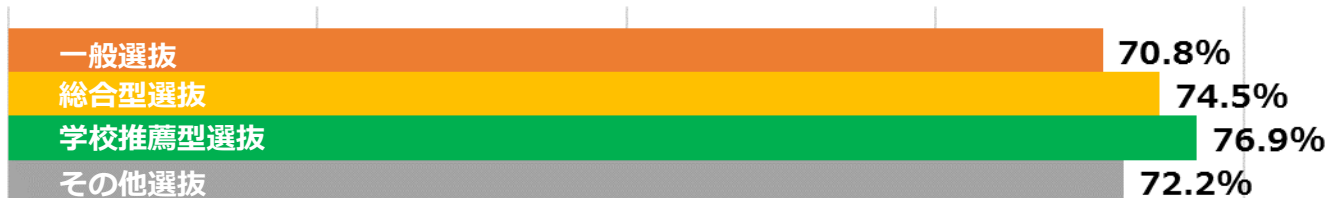


【その他の例】
 ○通信環境の事前確認の実施
 ○OPC等の貸出
 ○地方会場を設定して大学が準備したシステムを利用して実施

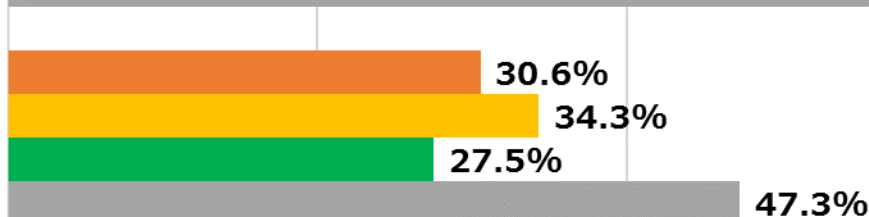
不正防止策

- オンラインを活用して入試を行った学部のうち、不正防止対策として選抜要項や学生募集要項等での注意事項の周知を行った学部は、一般選抜で70.8%、総合型選抜で74.5%、学校推薦型選抜で76.9%、その他選抜で72.2%である。
- 同様に、本人確認や環境確認を行った学部は、一般選抜で30.6%、総合型選抜で34.3%、学校推薦型選抜で27.5%、その他選抜で47.3%である。

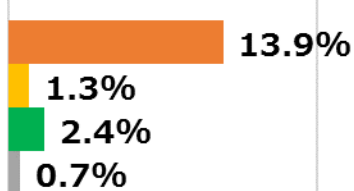
選抜要項や学生募集要項等での注意事項の周知



写真付き身分証明書を撮影させることによる本人確認や、受験場所の全体を撮影させることによる環境の確認を行った



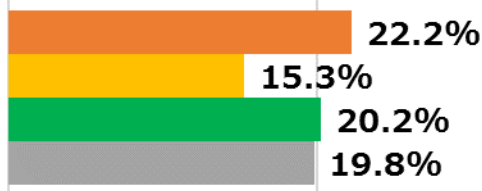
監視システムの導入



【監視システムの例】

- AIによる顔認証システム
- AIによる目線のチェック
- 受験者本人や使用するパソコン画面の動画撮影

その他

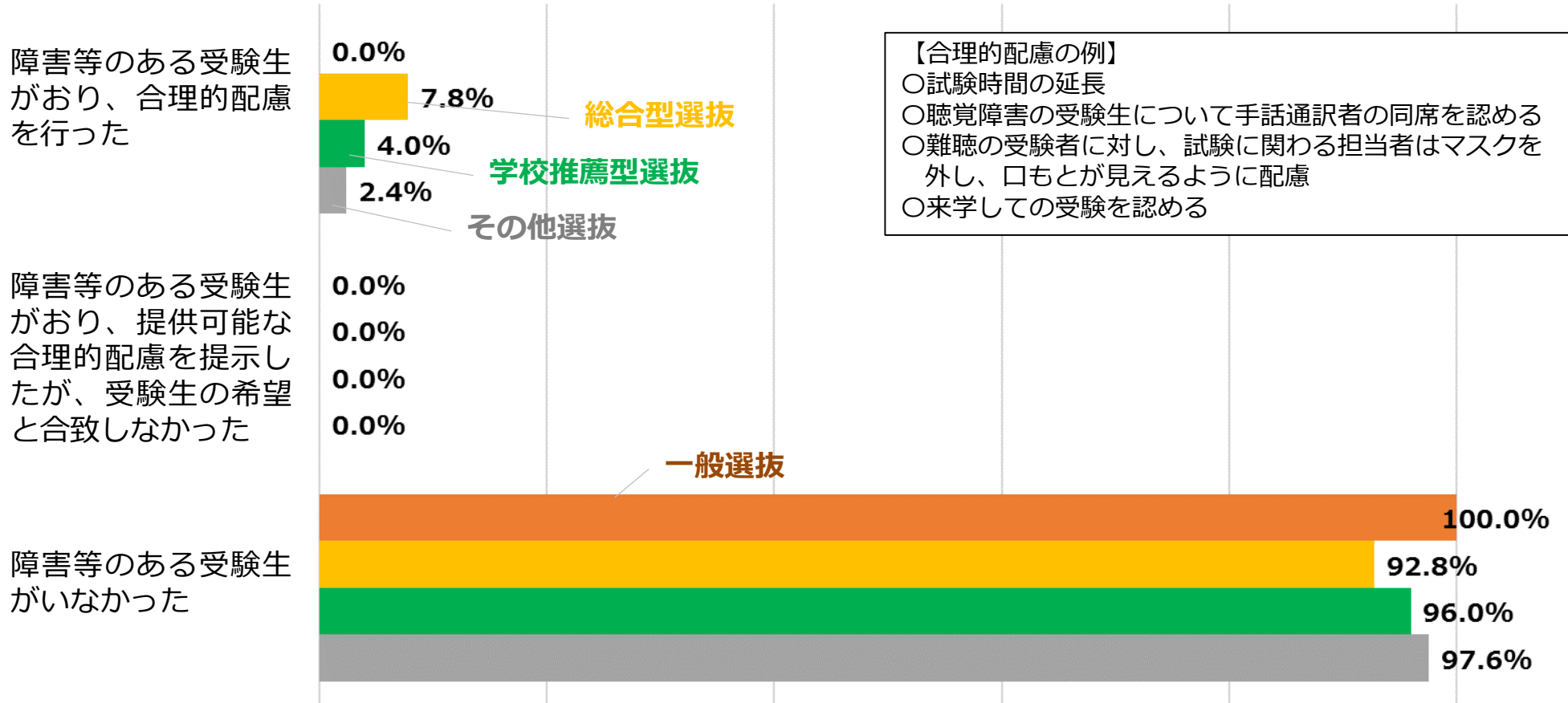


【その他の例】

- 出願書類の写真と本人とを照合
- 誓約書の提出を求める
- 試験実施者による録画
- Web会議システムのバーチャル背景禁止
- 使用する端末と試験室を大学側で用意するとともに、試験中は試験室外で大学担当者が監視

障害者への合理的配慮の提供

- オンラインを活用して入試を行った学部のうち、障害等のある受験生がおり、合理的配慮を行った学部は、一般選抜で0.0%、総合型選抜で7.8%、学校推薦型選抜で4.0%、その他選抜で2.4%である。



【合理的配慮の例】
 ○試験時間の延長
 ○聴覚障害の受験生について手話通訳者の同席を認める
 ○難聴の受験者に対し、試験に関わる担当者はマスクを外し、口もとが見えるように配慮
 ○来学しての受験を認める

一般選抜 n=72学部 総合型選抜 n=373学部 学校推薦型選抜 n=425学部 その他選抜 n=414学部
 複数回答 (ex. A学部の前期日程では「障害等のある受験生がおり、合理的配慮を行った」が、後期日程では「障害等のある受験生がいなかった」場合は、それぞれの項目に1カウントされる)

オンラインによる入試を実施して良かった点①

(受験機会の確保)

- ① 遠方に住む受験生が移動を伴わずに受験できる。【国公立大学】
- ② 海外在住の受験者への受験機会を確保できた。【国公立大学】
- ③ 交通費や宿泊費などの経済的負担がなくなり、海外に居住する受験生も気軽に受験してもらえた。【国公立大学】

(必要な能力・適性等の判定の観点)

- ① グループディスカッションについて、オンラインの方が誰が発言したかなど採点しやすかった。【私立大学】
- ② 対面の場合、マスクを着用して面接を行うため、受験生の表情が見えにくい。それに対し、オンライン面接では、受験生は基本的に自宅で受験するため、マスクを着用しておらず、受験生の表情がよく分かった。【私立大学】
- ③ 対面型による面接に比べて、オンライン面接は受験生の緊張を緩和する効果があるように思われる。受験生は例年になく落ち着いて面接の受け答えができていたように見受けられた。【私立大学】
- ④ 従来はサテライト会場での面接の場合、(人員不足のため)受験学科以外の教員が面接を担当することがあったが、オンライン面接にしたことによって受験学科の教員が必ず面接を担当することができた。【私立大学】
- ⑤ 試験の様子を録画し、試験後に査定結果等について検証することができた。【国立大学】
- ⑥ 試験内容を録画することで、試験実施の公平公正性を担保できるとともに、試験の振り返りを行うことで、入試全体の改善に繋がられる。【公立大学】

オンラインによる入試を実施して良かった点②

(業務負担)

- ① (トラブル等が起きなかったため、結果的には) 前日の設営や試験当日の業務負担が軽減された。【国立大学】
- ② 試験会場設営等は最小限で済んだ。【国立大学】
- ③ 事前に通信テストを行ったこともあり、想定していたよりもスムーズに実施できた。【公立大学】
- ④ 教員を現地会場まで派遣する必要がなくなったことから、業務効率化を図ることができた。【私立大学】

(新型コロナウイルス感染症対策の観点)

- ① 試験場における新型コロナウイルス感染症の感染リスクを負わず、安全性を確保し、試験を実施できた。【国公立大学】
- ② 対面の場合、マスクを着用して面接を行うため、受験生の表情が見えにくい。それに対し、オンライン面接では、受験生は基本的に自宅で受験するため、マスクを着用しておらず、受験生の表情がよく分かった。(再掲) 【私立大学】

オンラインによる入試を実施して課題と感じた点①

（必要な能力・適性等の判定の観点）

- ① 本来の学力・研究能力が高くとも、オンライン上での発表技術が未習熟なために、面接での点数が低く出てしまう（実力のある受験生を不合格にしてしまう）可能性がある。【国立大学】
- ② 慣れない形態での試験だったため受験者が普段以上に緊張していると見て取れた。【私立大学】

（受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保）

- ① 不正防止策について様々な策を講じたところで、監視できる範囲が限定される分、対面に比べて万全とはいえない。【国公立大学】

（高校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施の観点）

- ① 大学に来学せずに入学する学生が発生する為、入学後にギャップを感じる可能性がある。【私立大学】
- ② 入学意思が弱い者でも来学せずに気軽に受験することが出来るため、合格しても入学を辞退する場合があります。【国立大学】

オンラインによる入試を実施して課題と感じた点②

(技術的な課題等の観点)

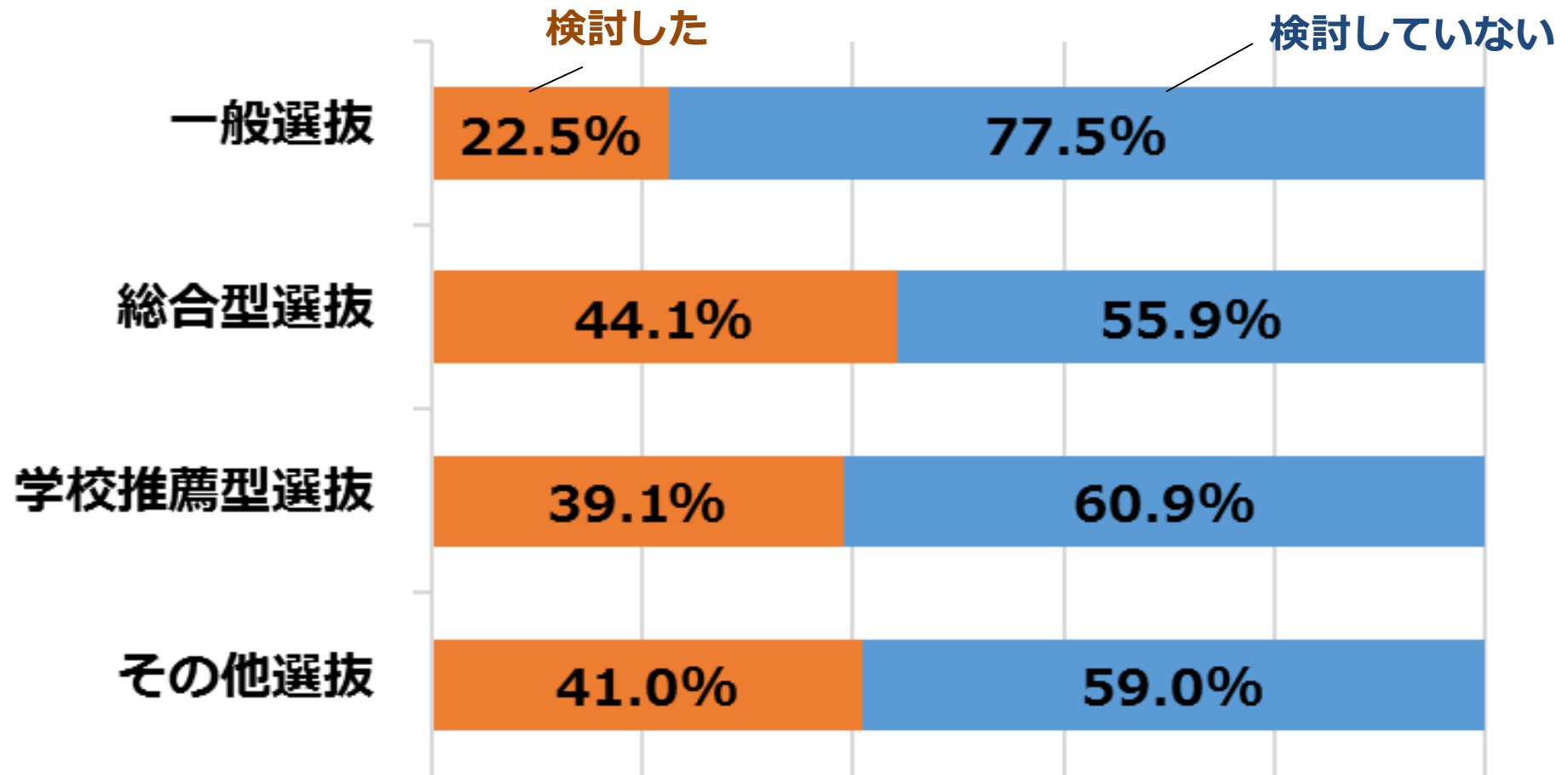
- ① 通信テストを平日実施したが、試験日が土曜日と休日だったため回線状況が実際の方が悪い事例があった。【公立大学】
- ② 通信が不安定な場合や、受験者側が操作に慣れていないことによるトラブルが発生する。【私立大学】
- ③ 通信環境のテストをした上で試験を行ったが、試験の途中で通信環境が急に悪くなる事例が起こった。受験生側の安定した通信環境の確保が課題と思われる。【私立大学】
- ④ インターネット回線が不安定になる（大学側、受験生側）ことがあり、予定時間が伸びたことにより、次の受験生を待たせることがあった。【私立大学】

(業務負担)

- ① 試験準備・実施に加え、事前接続テストやオンライン会議用アカウントの設定・通知など付随する作業もあり、運営に多くの時間と労力を要した。また、大学側の経費負担も大きかった。【国公立大学】
- ② 受験生が平日の日中は学校へ通っているため、通信テストを実施する日時の設定が難しい（夜の時間帯による残業や休日出勤が必要）。【国公立大学】
- ③ 日本国外の在住者のオンライン面接の場合、時差も考慮する必要がある。【私立大学】
- ④ 受験生一人で機器の操作ができない場合、高校の教員にご協力いただいたため、高校教員の負担が増えてしまった。【私立大学】
- ⑤ 希望者が非常に多くなった場合の受け入れ体制の構築、強化。【私立大学】

オンラインを活用した入試を実施しなかった場合の検討状況

- 個別選抜においてオンラインを活用した入試を実施しなかった学部のうち、実施を検討した学部は、一般選抜で22.5%、総合型選抜で44.1%、学校推薦型選抜で39.1%、その他選抜で41.0%である。



オンラインによる入試を検討したが実施に至らなかった理由①

(必要な能力・適性等の判定の観点)

- ① オンライン入試よりも大学入学共通テストの成績による選抜の方が個別学力検査として適していると判断した。【公立大学】
- ② 筆記試験等をオンラインで実施するにあたり、公平性を担保することが困難であると判断したため。【国公立大学】
- ③ 筆記試験を課しており、受験者には試験会場へ来てもらうことになるため、面接試験のみをオンラインとするのは現実的でない判断した。【公立大学】
- ④ 美術学部入試について検討したが、PC上で回答できるような試験ではなく作品制作（立体を含む）が必要で、監視及び提出管理が難しいため。【公立大学】

(受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保)

- ① 受験者全員に平等な受験環境を確保するのが困難であると判断したため。【国公立大学】
- ② 十分なトラブル対応や不正行為の防止ができないため。【国公立大学】
- ③ 全ての受験生にオンライン面接に対応できる環境があるか不明だったため。【私立大学】
- ④ 受験者の通信環境に関する公平性の担保・不正防止・学力検査問題の安全で公平な実施等について検討した結果、公平で安全な実施は難しいと判断したため。【公立大学】
- ⑤ オンライン環境が受験生により異なり、オンラインでの受験が難しい生徒のために大学側でその環境を提供することになった場合、結局のところほとんどの受験生が来学しての受験になると考えられたため。【私立大学】

オンラインによる入試を検討したが実施に至らなかった理由②

(技術的な課題等の観点)

- ① 学部入試前に大学院入試にてオンライン入試を実施したが、接続不良等の不具合が多く、通常の試験実施より時間と労力がかかった。【国立大学】
- ② 受験生側の環境が整わなかった場合の代替案がなかったため。【私立大学】
- ③ 本学及び受験生の通信環境を整えることができなかったため。【私立大学】
- ④ 小論文、個別学力検査をオンラインで実施した場合の不正行為について監視、防止が困難であると判断したため。【私立大学】
- ⑤ 解決すべき事柄（インターネット環境、試験問題、共有方法、トイレ退室、タイピング能力、不正行為防止策など）が解消できなかったため。【私立大学】

(新型コロナウイルス感染症対策の観点)

- ① 試験日数を例年より延ばし、試験室の受験者数を減らすことで密を避け、対面で実施することができたため。【国立大学】
- ② 全選抜区分において、追試験を実施するため。【国立大学】
- ③ 本県への移動制限等もなく、対面での実施が可能と判断したため。【公立大学】
- ④ 対面とオンラインからの選択で受験生が全員対面を希望したため。【私立大学】